

質問 森（治）議員（自民 瑞穂市）令和8年10月1日（木）

1 地方鉄道を生かした沿線のまちづくりについて

（1）地方鉄道を活用したまちづくりの現状と県の考えについて

答弁 知事

議員の御指摘のとおり、現在、地方鉄道を取り巻く経営環境は、沿線人口の減少に加えて、物価高騰や人手不足の影響もあり、全国的に厳しい状況が続いております。そのような中で、地方鉄道を長期的に維持するためには、通勤・通学といった地域内のニーズだけでは限界があり、沿線の魅力向上や誘客の仕掛けづくりなど、「域外から人を呼び込む」まちづくりや、継続的な観光振興に取り組むことが不可欠でございます。

このため県では、「鉄道の強みを生かすには、沿線地域が一体となって鉄道を軸としたまちづくりを進めることが重要」との考え方のもと、昨年度から沿線自治体の首長の皆様のもとに幹部が訪問いたしまして意見交換を重ねてまいりました。加えて、自治体の財政負担の軽減も念頭に置きながら、国の「鉄道事業再構築事業」の活用を含め、今後の鉄道の在り方に関する勉強会なども開催してまいりました。

その結果、鉄道を単なる移動手段としてではなく、まちづくりや観光振興の核となる資源として、より積極的に活用しようとする新たな動きが芽生えてきておるところでございます。

こうした動きを受け、この夏には私自身も、長良川鉄道、樽見鉄道、養老鉄道の沿線自治体の首長の皆様と、鉄道を軸としたまちづくりや観光振興について率直な議論を行ったところでございます。

鉄道沿線の観光振興を進める上で最も重要な点は、鉄道を軸に地域の観光資源を結び付け、観光客を沿線全体で迎える視点でございます。例えば、先立って議論いたしましたけれども、長良川鉄道の中で、例えば小瀬鵜飼というものがございますが、これをPRする場合には、小瀬鵜飼単体で議論するのではなく、鉄道沿線で充実した1日を過ごせるように、昼間の過ごし方ですね、鵜飼そのものは夜しかありませんので、昼間の過ごし方として、郡上市の町並みの散策や沿線地域の自然・グルメをセットでPRして、周遊観光につなげていくことが重要となっております。こうした視点から、長良川鉄道沿線では現在、自治体の発案で、産業界も加わる形で観光振興を目的とした協議会、この設立準備が進められており、今後の展開を期待しているところでございます。

このほか、樽見鉄道、養老鉄道、明知鉄道におきましても、沿線自治体の首長の皆様が鉄道を軸としたまちづくりに意欲的に取り組んでおられておりますので、それぞ

れの沿線の更なる活性化にも大いに期待しているところでございます。

鉄道は、定時性、時間通りに走るということですね、定時性に優れ、路線が地図上で明確、地図を見ればどこを走るか分かるということ、この結果として、旅行者など土地勘のない方にも使いやすい交通手段であり、域外から人を呼び込む面で大きな強みとなります。県といたしましても、関係者の皆様と連携して、鉄道の強みを生かし、沿線のまちづくりを積極的に支援してまいります。

担 当 課	公共交通課
電話番号	058-272-8654
メー ル	c11134@pref.gifu.lg.jp

1 地方鉄道を生かした沿線のまちづくりについて

(2) 鉄道の価値を高める未来志向の検討に対する県の積極的な関与について

答弁 知事

議員御指摘のとおり、地方鉄道を単なる移動手段として捉えるのではなく、観光などの経済活動や人々の交流など、沿線全体の活力を生み出す「核」として位置づける視点が重要でございます。そのためには、今申し上げてきましたけれども、まちづくりの主体である沿線自治体を中心とする地域の皆様が連携し、「域外から人を呼び込む」ことも含めて、沿線を一体的に捉えた「将来像」を検討し、共有することが重要であると考えております。

例えば、明知鉄道におきましては、沿線自治体が「明知鉄道沿線地域公共交通計画」の下で将来像を共有し、地域資源を生かした誘客に取り組んでおられます。

また、今ほど申し上げました長良川鉄道の一例を申し上げましたけれども、議員の地元を走ります樽見鉄道におきましても、現在放送中のNHK連続テレビ小説「ブラッサム」を好機と捉えて、宇野千代さんのゆかりの淡墨桜を生かした広域的な誘客に取り組むことも考えられます。加えて、樽見鉄道の利用が淡墨桜の見頃の時期に集中するという実情を踏まえまして、北部の谷汲の華厳寺、そして南部の大型商業施設「モレラ岐阜」や大垣周辺のビジネス拠点など、多様な地域資源を鉄道で結び、年間を通じた周遊や交流の促進につなげていくことも期待されるところでございます。

さらに、県全体の将来を見据えれば、今後リニア中央新幹線が開業した際に、その効果を県内全域に波及させるためには、県内各地へのアクセス性や周遊性を高める交通ネットワークの構築が不可欠でございます。その中においても地方鉄道は、単なる沿線住民の移動手段に留まらず、観光や交流を支え地域の活力を生み出す基盤として、今後益々重要な役割を担うべきものと考えております。

こうした観点から、地方鉄道の利便性や魅力の向上につながる新たな設備投資の在り方も含め、地域の将来を見据えた未来志向の議論が進められていくことが重要であると考えております。

沿線自治体を中心とする地域の皆様が将来像を共有し、その実現に向けた具体的なプロジェクトを主体的に進められるのであれば、県としても積極的にその議論に参画し、広域的な観点から必要な調整や支援を行うなど、地域が目指す将来像の実現を後押ししてまいります。私自身も、地域の皆様と将来像を共有しながら、その実現に向けて伴走するパートナーとして、力を尽くしてまいります。

担 当 課 公共交通課

電話番号 058-272-8654

メー ル c11134@pref.gifu.lg.jp